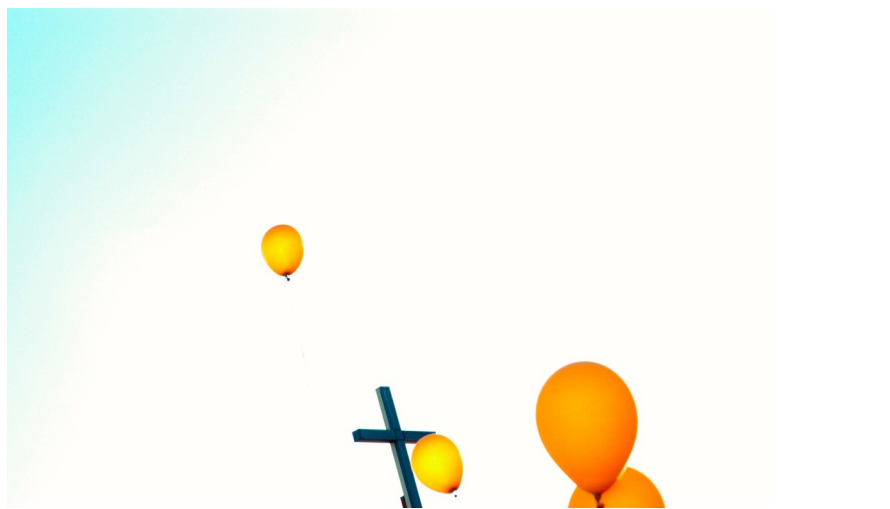


マタイの福音書の最後にイエスが語った言葉を、私達は“Great Commission”「大宣教命令」、と呼んでいます。なぜなら、復活の後、キリストが召天される前に、キリストは弟子達に、全世界に出て行って福音を伝えるようにと命令されたからです。

正に同じ命令が私達にも、毎日出されているのです。私達が一生懸命になって相手に手を差し伸べるとき、考えの違いや習慣の違いが原因となってそこに不自然さや困難もあるでしょう。言葉の違いで思うように自分の言いたい事が相手に伝わらないかもしれません。文化背景の違いの人達がお互いに素顔で向かい合う事は難しいことなのです。

それらの困難を良く理解した上で、私達人類は、違いを越えて一つになる可能性にチャレンジする必要があるのではないのでしょうか。一つになる(A unity)ということは、肌の色や、人種や、民族に基づいての一致ではなく、常に十字架の元に見いだす事のできる一致であるべきです。

あらためまして、日本語部宣教26周年、おめでとうございます。
日本語部が50周年記念を迎える時に私がまだ存在しているかどうかわかりませんが、私は、この信仰の群れが、これからも神様の祝福を受けて、信仰の火を心に燃やし続けながら、様々な新しい可能性を大らかに受け入れて前進して行くようにと、心から願って止みません。



2014年9月20日LCR 第五回Japan Festivalにて
LCRの50周年を記念して50の風船が空高く放たれました。

「良い知らせは分かち合おう」

2014年11月2日 LCR日本語部26周年宣教記念特別礼拝
説教：LCR主任牧師 Rev. E. Carl Zimmermann

日本語部の宣教26周年記念礼拝を祝う特別な日に、私に説教をする機会を与えて下さり、心から御礼申し上げます。私は安達牧師との友情、そして共にパートナーとして牧会ができる事に感謝すると同時に、過去何年間に亘り日本語部で牧師として献身された先生方と共に教会の働きをする特権が与えられた事にも感謝を捧げたいと思います。加えて、日本語部には常に力強いレイリーダー(熱心な信者の協力者)が与えられています。私は、皆さんがこれからも、神様の御心に適う僕として、誠心誠意、献身的に神に仕えて行く事を強く望んでいます。

このような記念日には、私たちは特別に過去に起こった様々な出来事を思い起こします。しかし、神様は常に将来何が起こるかに興味を示されるのです。たとえば、この日本語部はどのような将来へと向っているのか？皆さんはどのような夢や希望を描かれていますか？私達のミニストリーが将来繁栄するには、どのような準備や改善が必要なのでしょうか？

現実的に、この地域の日本人人口が少ない事実に基づいて考えてみると、これらの質問は重要であり、また難題でもあります。いったいどうすれば、この日本人の人口密度が低いオレンジカウンティーで、私達の伝道活動をより活発に広げて行く事ができるのでしょうか？

ひょっとしたら、ローカルの地域だけでなく、グローバルに目を向けるのも一つの方法なのかも知れません。もしも、私達が日本人だけを対象としている日本語部から、全てのアジア人を受け入れられるミニストリーに変わるとしたら、どうなるのでしょうか？言葉を代えて言えば、それは福音伝道の為に、私達が、周りに存在する沢山の異なったコミュニティーを受け入れ、ただキリストに栄光をもたらすだけのミニストリーではなく、他のアジア民族、そしてそれぞれが大切にしている伝統や風習をも進んで受け入れていくミニストリーを形作って行くということなのです。

聖公会司教、Katherin Schori は、世界中を駆け回っている方で、多文化伝道に特別に 興味を示されている方です。彼女の著書、“Gospel in the Global Village” には、教会の真の使命とは、私達人類を分裂させている壁をたたき壊し、私達人類をつなぐ橋を築く事だ、と言っています。それぞれの民族や人種には、自分たちの歴史があり、文化や伝統があります。それらは尊重すべき大切なものであり、決して「驚く程素晴らしい神の愛を、全世界に伝えよ」と言われた、キリストの教えの障害になるべきものではないはずです。

考えてみて下さい、皆さんに与えられている環境はユニークだと思います。皆さんは、自分たちの受け継いだ伝統を真剣に守りながらも、クリスチャンである事に心を尽くしているのです。皆さんはご自分の伝統を愛し、守って来ている、しかしながら、キリストをそれ以上に大切に思っているという事実は、他の人達と比べて大きな違いだと思います。皆さんの心の中には、ただ日本を故郷とする人達だけでなく、全てのアジアの輪の中から来ている人達をも受け入れる場所があると私は信じています。

それではどうすればまだイエス・キリストの驚くべき献身の愛の話しを聞いた事も無い人達との間に橋を築くことができるでしょうか？

第一に、相手の文化風習を可能な限り学ぶ事だと思います。多分誰からもそうは見えないかも知れませんが、実は私はこの復活ルーテル教会に来る前に、3冊か4冊の日本の生活習慣や、歴史について書かれている本を読みました。私は日本の文化、価値観、家族体制、宗教遺産、衣食住、神聖な伝統などを学ぼうと、かなり努力したのです。

人間関係は、その相手に興味を示し、尊敬し、大切に接する事で改善されるのが常です。

では第二のステップを考えてみましょう。私達が隣人を理解しようとする事は大切なのですが、私達自身が聖書を理解するまでは、彼らと信仰の交わりを築く事は決して出来ません、それはとても難しいことです。

聖書に書いてあるみ言葉を理解するのは大変なチャレンジです。

たとえば、イエスが自分の事を良い羊飼いと云ったり、世の光と云ったり、門であるとか枝であるとか言いますね？ 何故イエスは彼の友達に十字架を背負って自分について来るようにと誘ったのでしょうか？ 聖書には沢山心を動かされる事が書かれています。しかし、同時にはっきりと理解する事ができずに 困惑してしまうような事も多く書かれています。とは言え、もし私達の信仰が聖書に基づくものであるのなら、私達が聖書を知る事は絶対に必要なことなのです。

ではどうすれば良いのでしょうか？ 言うまでもなく、先ずは聖書が必要です。そして聖書を手にしたら、新約聖書のマルコの福音書から始める事です。一日に一章でもいい、読み始めることです。神があなた方の心を開き、神のみ言葉に聞けるようにと祈る事です。一言一言今読んだ聖句を考えてみる事です。自分は読んだみ言葉を理解できたかどうか、それらのみ言葉は、自分に何を特別に語っているのか、それらのみ言葉は自分の人生、そして態度や行動を変える程力強いものであるのかどうか？

一度聖書を毎日読む事が身に付いたら、次は聖書を学ぶ会に出席することです。聖書を学ぶ会では、安心して質問することもでき、神様があなたに何を語りかけているかを話、その場に出席している皆さんと分かち合う事ができる場所なのです。

第三に、あなたの生き方と信仰を、熱意を持って第三者と分かち合う事です。あなたの周りには、永遠の命が約束されている事実を知らない人達が居ると思います。そして、その人達が永遠の命の話聞くのは、あなたから聞くのが初めてかもしれないのです。だから、喜びをもって、私達の創造主が、私達の罪を赦し、永遠に私達を愛して下さっている事を伝えようではありませんか。

勿論、私達は誰もが自分と同じような背景の人達と一緒にいることが一番心地よいと思っています。自分の心地よい場所から出て、その枠の外にいる人達と付き合いをするには勇気と、信頼が必要です。でも、自分たちを区切っている壁を壊そうと決心さえすれば、私達が皆一緒に交わっていくようにと、神様は必ず新しい道を与えて下さいます。